

(別紙様式第5号)

6次産業化推進整備事業(農業主導タイプ)点検評価書(平成29年度分)

地方農政局等名
東北農政局

6次産業化法人の名称	設立年月日	代表者名	構成員数
有限会社 伊豆沼農産	平成元年5月1日	伊藤秀雄	3人
主たる事務所の住所	宮城県登米市迫町新田字前沼149-7	TEL FAX	セキュリティに配慮し、非公開とします。

1 事業の実施状況に対する所見

[取組状況について]

消費者ニーズに対応した規格の製品を製造することにより加工品の取扱い数量は、順調な推移をたどっている。PED(豚流行性下痢)対策として、豚舎の移転新築を実行し、計画的な出荷体制を行っている。また、営業部門では、積極的に新規取引先が拡大している。

[経営状況、事業による変化等について]

新規導入設備による製品の品質は良く、お客様から好評を得ていることから、規格重量やレシピの見直しを行い、レストラン、直売所への対応に切り替えた。また、作業効率、製品歩留まりが良くなり、生産性の向上につながっている。
本年は、徹底した3S(整理、整頓、しつけ)活動を行い、社内全体でその価値の共有を行っている。また、新規取引先の増加により、売上げも増加した。平成30年1月には宮城県知事から富県宮城グランプリを受賞し、社員のモチベーションも向上した。

2 成果目標の達成状況に対する所見

項目	所見
(所得の向上に関する目標) 売上高の増加	本年から外販営業を積極的に行い新規取引先が増加したものの、目標とした売上高に達しなかった。
(雇用の創出に関する目標) 雇用者の増加	目標は達成している。
(地域の活性化に関する目標) [体験実習生受入]	目標は達成している。

3 施設等の利用状況についての所見

[新規導入機械の利用状況について]

新規導入設備を使っの製品のできれば品質と作業性は極めて良好であり、重量規格やレシピを見直すなどして対応できる品種を多くしたことから計画を上回る利用率となっている。しかし、レストランの入店客数が減少したため一部の導入設備のみ計画を下回ってしまった。

4 6次産業化法人と連携法人の取引状況についての所見

該当なし

5 改善措置等に対する所見及び指導内容

(1)成果目標について

外販営業を積極的に行った結果、新規取引先の増加、成果目標である売上高も増加している。目標達成に向け、さらに外販活動を展開していく計画であることから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。

(2)施設等の利用状況について

計画が下回った導入設備については、週替わりランチの充実と月別ディナーの展開を強化することにより稼働率を上げる計画であることから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。